

ヨハネはヨルダン川沿いの地方一帯に行って、罪の赦しを得させるために悔い改めの洗礼を宣べ伝えた。これは、預言者イザヤの言葉の書に書いてあるとおりでである。「荒れ野で叫ぶ者の声がする。『主の道を備えよ / その道筋をまっすぐにせよ。谷はすべて埋められ / 山と丘はみな低くされる。曲がった道はまっすぐに / でこぼこの道は平らになり / 人は皆、神の救いを見る。』」（ルカ福音書 3 : 3 ~ 6）

ヨハネは、祭司ザカリアの一人息子であったので、父親のように神の前に正しい祭司になるように教育を受けたに違いない。しかし、成人したヨハネは神殿ではなく、ヨルダン川沿いの荒れ野に現れた。荒れ野は、イスラエルの民が出エジプトして40年間、放浪した所で、ここで、信仰が確立し、民族として再生した原点であった。ヨハネは、神殿からは真実は起こり得ないと、信仰の原点である荒れ野に立った。時は、皇帝ティベリウス治世の第15年、ポンティオ・ピラトがユダヤの総督、ヘロデがガリラヤの領主、アンナスとカイアファが大祭司であった。ヨハネは、荒れ野で罪の赦しを得させる悔い改め洗礼を宣べ伝えた。これは、第二イザヤの預言、「荒れ野に主の道を備えよ。私たちの神のために / 荒れ地に大路をまっすぐに通せ。谷はすべて高くされ、山と丘はみな低くなり / 起伏のある地は平らに、陰しい地は平地となれ。こうして主の栄光が現れ / すべての肉なる者は共に見る（イザヤ40 : 3 ~ 5）」の実現であった。第二イザヤは、バビロン捕囚から解放され、憧れのエルサレムに帰還できると喜びの声を叫んだ。エルサレムまでの道のりは谷あり山ありの荒れ地であるが、谷は埋められ、山は低くされ、平らな道を帰還することができる神の救いを見ると宣べ伝えた。ヨハネは、卑屈な谷を埋め、高慢な山を低め、救いを見る主の道を備えよと語った。人々は、ヨハネの身を捨てた迫力ある説教に感動して、悔い改めの洗礼を授けてもらおうと、大挙して群がった。ヨハネはその群衆に対し、「毒蛇の子らよ、差し迫った神の怒りから免れると、誰が教えたか」と激しく叱責した。そして、「我々の父はアブラハムだ」との信仰を、与えられた、当然のものと考えてはならないと言い、斧は木の根元に置かれ、良い実を結ばない木は皆、切り倒され、火に投げ込まれると訴えた。群衆は何をすればよいのかと問うと、下着を二枚持つ者は持たない者に分け与え、食べ物を持っている者も同じようにせよ、徴税人には規定以上のものを取り立てるな、兵士には金をゆすり取ったり、だまし取ったりせず、自分の給料で満足せよと答えた。貧しい者を支え、人から奪わず、律法に従う生活を全うせよと説いたのである。メシアを待ち望んでいた群衆はヨハネがメシアではないかと期待した。その群衆に対し、私はメシアではないと言い、下記のように語った。私は水で洗礼を授けているが、私よりも力ある方が来られ、聖霊と火で洗礼をお授けになる。私は、奴隷の仕事である、その方の靴の紐を解く値打ちもない。その方の手には箕があり、麦打ち場を掃き清め、麦は倉に納め、殻は消えない火で焼き尽くされる、と。その他にも、様々な勧めをして、神の言葉を語り告げた。ヨハネは、神を初々しく信じ、律法を守り正しい生き方をせよと、人々の心を神に向けさせ、メシア到来の道備えをした。彼の説教は律法の下での裁きに重点があり、主イエスの赦しの福音とは異なっていたが、彼の真実は民衆から絶大な支持と尊敬を集めた。

ヨハネは、領主ヘロデが兄弟の妻ヘロディアと結婚したことは律法に反すると抗議したため、ヘロデの怒りを買って、牢に閉じ込められ、最期は、斬首による殉教を遂げた。